F 23　現代婦人の生活構造と家政教育（4）　学習活動にかゝわる諸状況

広島大教育　○関志比子　菊沢康子
島根大教育　多々納道子

目的（本報から8報にいたる一連の報告は、本年度の中・四国支部会で発表した続報である。）

婦人の新しい生き方志向は、学習意欲に顕在しており、多彩な学習行動を展開している。このような動向に関して、家政教育を生涯教育の視点から体系化することをめざすものであるが、特に学校後の婦人の自己教育には生活構造との関連が考えられるので、婦人の年令層や教育歴、就業状況、家族状況や居住状況、生活時間やライフサイクル等の各構造面から、学習活動に関する事項、生活運営に関する知識・技術の供給源、および、学校後の生活者の立場からの家政科に対する評価や期待について分析し、家政教育の役割やあり方を考えたい。

方法　広島県福山市に在住する婦人について層化抽出によって対象者を選び、質問紙法による調査を実施した。調査時期は昭和55年11月、調査数は1966名、有効回収率は97.6%である。

結果　①　家政に関する生活課題、学習課題、学習要求は、現在の学習活動の内容に連係する学習構造にいたっていない。②　婦人の自己教育能力である、学習への点火性、継続性には特徴はみられなかったが、集中性はやゝ優位であることが意識されていた。③　学習活動への参加状況は、家政的内容、非家政的内容間の参加率は僅差であった。また、学習形態によって参加状況は異なり、学習方法は少人数グループ学習への期待が大きいのに対して、活動実態は集団学習活動が目立っていた。④　生活の知識・技術の供給源としては、「家族」、「マスメディア」に集中している傾向がみられた。⑤　家族科の効用に対する評価は、約52%であり、家族科教育内容への期待としては、「家族教育」、「家族の人間関係」、「健康生活」について「家事技術」がげられ、学校教育と学校後の家政教育との接続の必要性が見い出された。